

公約実現

10月から

みなさんの約10,000筆の署名が届き

小学校給食も無償化へ



学校給食費 中学校の無料を実現！
小学校も無料の実現10月

今年4月から全中学生の給食費が無償化されてからも、区民から「小学校も一刻も早く実施を」と署名が区議会に出され、7月の委員会でも審議されました。日本共産党は「小学校給食は本来4月から実現できた」と指摘し、採択（賛成）を主張。一方、与党や都民ファーストの会は、この期に及んで「継続」の態度を表明。満席の傍聴者からは「区は実施を表明しているけど、まだ実現していないからこそ、議会が一丸となって議決し、区を後押しすることが必要」と採択を強く求めました。

「小学校給食費の一刻も早い無償化を求める陳情」各党の態度

（文教委員会での態度。維新・立民は文教委員がないため態度不明）賛成○ 継続△

自民党	公明党	共産党	改革	都民ファースト	結果
△	△	○	△	△	△

傍聴席からどよめき
いまだ賛成しない自民・公明・都民ファ
小学校給食無償化署名を継続に

改選後初の第2回定例会で、区は小学校給食の無償化について、10月をめどに実施する方針を示しました。
日本共産党の代表質問では、「やる気があればできる。問われているのは事業の優先度と区の姿勢だ」「区民に立ち退きを求める道路建設や住民要望のない大型開発よりも、区民の声に応え、コロナ禍でも積みました積立金を活用し、直ちに小学校給食無償化にふみ出すべき」と迫りました。
大山教育長は、「小学校給食無償化は今年10月をめどに実施すべく必要経費を精査中」と答弁。9月議会に補正予算案を提出すると明らかにしました。

小学校給食の無償化について、足立区は10月をめどに実施する方針を示す。

弱者切り捨て「維新」の姿勢が浮き彫りに

区議会議員選挙で、新しく誕生した「日本維新の会足立区議団」（3名）。第2回定例会で、弱者切り捨ての姿勢が浮き彫りになりました。

産業環境委員会に出された区民からの「インボイス」導入に関わる陳情に対し、日本共産党は賛成し、自民・公明議員は「継続」を主張する中、維新所属の議員だけが「益税」だと不採択（反対）を表明しました。

総合交通対策特別委員会では、交通空白地域の「花畑周

辺地域のバスの試験運行」について、維新議員は区が運営費を負担していることについて「切り上げるというのも一つの手」など、運行を延長する必要がない旨の発言。

維新議員の主張どおりに進めれば、区内の多くのバス路線が廃線になりかねません。

採算制の低い分野こそ支えるのが、自治体の役割りではないでしょうか。



「身を切る改革」提案し実践！

議会改革を提案

足立区議会は7会派（自民・公明・共産・維新・立民・改革・都ファ）で構成され、日本共産党は、区議会第3党としてスタート。新議長が決

まると同時に、日本共産党が「議会改革」の提案・申し入れを行ったことがきっかけとなり、各党代表からなる「議会のあり方を考える検討会」が発足しました。

費用弁償を220万円返還

日本共産党の前議員3名は、7月10日、在任中に支給されていた費用弁償を区に寄付（返還）し、自らができる「身を切る改革」を実行しました。

費用弁償は議会出席に伴い1日3000円支給されます。共産党は、廃止を主張してきましたが、合意に至らなかったため、2015年区議選以降、費用弁償を全額を積み立て、退職時に区に寄付（現職議員の寄付は公職選挙法で禁止）することにしていました。

この日は浅子けい子、西の原えみ子、きたがわ秀和前議員の3名が220万2000円を寄付。使途は



「あだち子どもの未来応援基金」を始め、育英資金、文化芸術、地域福祉振興、環境、NPO法人等応援、緑・環境・動物愛護事業に限定するものとなりました。

応対した近藤やよい区長は「お預かりしたみなさんの寄付は、目的にかなうようしっかり活用いたします」と答えました。

日本共産党

足立区議団ニュース

発行会派
日本共産党足立区議団

足立区中央本町1-17-1
足立区役所内

発行責任者 ぬかが和子
編集責任者 小林ともよ